

平成30年度 基本施策評価シート (部別)

基本目標	魅力ある産業を維持・創造するまち
基本方針	商工観光業を振興するまち
基本施策名	観光の振興

	所属	職名	氏名
作成者	観光交流促進課	課長	大竹 範彦
評価者	商工観光部	部長	鎌崎 孝善

1 基本施策に対する基本姿勢

現状	北アルプスの麓に広がり、緑豊かな自然や清らかな水に恵まれ、北アルプスの山々と田園が織りなす景観は、全国に誇れる本市の大きな魅力です。本市は魅力的な観光地だと思われ、市民の割合が約80%と高いことから、観光産業の振興を図るため、観光関連事業者や農林水産業者など多くの産業の事業者が、市民とともに地域の観光素材を掘り起こし、既存の観光資源と効果的に組み合わせることや、国内外に情報発信し、交流人口の拡大に取り組む必要があります。 第2次安曇野市総合計画の基本施策、観光振興では平成29年度観光入込客数5,088千人、観光消費額12,205百万円の調査結果をベースに、来訪者増加に向けた取り組みを実践しております。例えば、初夏の「信州安曇野ハーフマラソン大会」や真夏の「安曇野花火」そして収穫の秋の「新そばと食の感謝祭」などの大イベントによる集客により、年々来訪者が増え続けております。また、同様に外国人の宿泊客も、この数年間で増加傾向にあります。
基本方針 (目指すべき方向性)	新たな素材の掘り起こしと既存観光資源の連携などにより、観光産業の振興を図るとともに、外国人旅行者に対応した受入体制の整備を進めます。

2 施策指標

指標	単位	(設定時)	目標値	H28	H29	H30	達成率	進捗状況	所管課
観光消費額	億円		188	113					観光交流促進課
外国人宿泊者数	人		25,000	15,000					観光交流促進課

施策指標の進捗状況と分析	安曇野を多くの皆さんに訪れてもらうと同時に長く滞在してもらうこと（通過型から宿泊滞在型へ）で、観光消費額も増えることから市観光協会や市商工会あるいは、松本広域など広域観光団体とも連携し魅力あるイベントの開催に取り組んでいます。 本市独自イベントでは、平成30年度で4回を数える「信州安曇野ハーフマラソン大会」の開催により、北は北海道～南は沖縄まで、全国から多くのランナー（県内含む約6,000人）や友人、家族、大会運営をサポートしていただくボランティア（約1,000人）、沿道で声援をする市民等（約13,000人）を含め約20,000人が関係する大きなイベントとなっており、市内の宿泊施設や飲食店等への波及効果があると分析しております。 その他では、真夏の「安曇野花火」や収穫の秋に開催する「新そばと食の感謝祭」などもそれぞれ約25,000人、約40,000人の集客実績があり、これらも宿泊滞在型のイベントとして定着しつつあります。
--------------	--

3 基本施策を構成する事務事業の評価

(単位：円)

No	コード	事務事業名	所管課	事業費					事務事業の状況				重点化		
				H28	H29	H30	H31	R 2	合計	事業区分	新/継	終期		方向性	正規職員数
1	0107230	来訪者受入環境整備事業	ブランド推進担当	7,103,085	8,970,316	6,872,778	6,420,000	6,428,000	35,794,179	政策的業務	継続	期限なし	事業の進め方の改善が必要	1	
2	0107240	観光推進組織支援等事業	ブランド推進担当	57,787,800	53,964,852	51,819,050	51,943,000	50,643,000	266,157,702	政策的業務	継続	期限なし	事業の進め方の改善が必要	0.5	
3	0107270	観光イベント事業	観光交流促進係	45,405,786	35,704,332	40,669,254	42,012,000	42,012,000	205,803,372	政策的業務	継続	期限なし	現状のまま事業を実施することが適当	4.34	
4	0107280	しゃくなげの湯周辺整備事業	拠点維持整備係	149,175,744	192,388,613	124,838,800			466,403,157	ハード(継続)	継続	平成30	現状のまま事業を実施することが適当	1	○
5	0107300	温泉施設経営管理等事業	拠点維持整備係	16,146,980	5,997,351	6,224,839			28,369,170	施設の管理運営	継続	期限なし	現状のまま事業を実施することが適当	0.2	
6	0107310	廃線敷施設維持点検管理事業	拠点維持整備係	2,100,043	2,299,607	2,399,618			6,799,268	施設の管理運営	継続		現状のまま事業を実施することが適当	0.1	
7	0107320	登山道等整備事業	拠点維持整備係	11,056,487	16,514,922	15,767,049			43,338,458	施設の管理運営	継続		現状のまま事業を実施することが適当	0.2	
8	0107330	観光施設公園管理事業	拠点維持整備係	54,154,018	30,658,596	37,358,810			122,171,424	施設の管理運営	継続	期限なし	現状のまま事業を実施することが適当	0.5	
9	0107390	登山者用駐車場整備事業	拠点維持整備係	3,294,000		2,602,800			5,896,800	ハード(継続)	継続	平成30	現状のまま事業を実施することが適当	0.3	
10	0107410	自然交流センター「せせらぎ」の運営管理事業	拠点維持整備係	3,356,640	5,181,840	3,423,600			11,962,080	施設の管理運営	継続		現状のまま事業を実施することが適当	0.3	
11	0108290	御宝田水のふるさと公園の管理事業	拠点維持整備係	724,569	1,610,106	731,910			3,066,585	施設の管理運営	継続		現状のまま事業を実施することが適当	0.2	
12	7101010	有明荘・長峰荘運営管理事業	拠点維持整備係	28,664,798	14,069,711	18,903,993			61,638,502	施設の管理運営	継続		現状のまま事業を実施することが適当	0.5	
合計				378,969,950	367,360,246	311,612,501	100,375,000	99,083,000	1,257,400,697						

事務事業量とコスト (費用対効果)の分析	長野県観光地利用者統計調査によると平成26年から平成29年度に安曇野市の観光地を訪れた利用者数は年々（約60,000人～110,000人）伸びていることから、「信州安曇野ハーフマラソン大会」や「安曇野花火」「新そばと食の感謝祭」などの集客イベント等が効果を上げていると考えられます。来訪者が長く滞在でき、ゆっくりと観光スポットをめぐるシステム（シェアサイクルシステム）を平成30年度に試験的に導入しました。このシステムを検証し、更なる来訪者満足度を上げる検討をし、取り組む必要があります。また、外国人観光客が増加傾向にあることから、Wi-Fi、電子決済、施設のユニバーサル化（多くの人がわかりやすいサイン）など受け入れ体制の強化をする必要があることから観光推進組織支援等事業として、特に市観光協会や山岳観光推進実行委員会等とも連携し取り組む必要があります。
----------------------	--

平成30年度 基本施策評価シート（部別）

基本目標	魅力ある産業を維持・創造するまち
基本方針	商工観光業を振興するまち
基本施策名	観光の振興

	所属	職名	氏名
作成者	観光交流促進課	課長	大竹 範彦
評価者	商工観光部	部長	鎌崎 孝善

重点化事務事業の考え方	平成30年度の重点事業として掲げた「しゃくなげの湯周辺整備事業」では、26年度から30年度まで取組み、建物周辺外構工事、足湯建設、駐車場および公園立木整備などを完成させました。特に平成30年度においては、いろどりの立木整備工事や周辺駐車場整備など124,838千円の費用により充実した施設となりました。長野県観光地利用者統計調査では、安曇野徳高温泉郷の括で、H27年度利用者数1,421千人・H28年度1,541千人・H29年度1,664千人と年々12万人程度ずつ増加しており、市民や来訪者の憩いの場、賑わいの空間（西山山麓の観光拠点）として効果が表れつつあると認識しております。
縮減・廃止事務事業の考え方	なし
総合評価 (次年度へ向けた課題の抽出含)	観光庁の外国人延宿泊者数調査によると長野県を訪れる宿泊する観光客は年間100万人を超え、当市においても、H29年度に21,210人（H28年度より6,093人増の21,210人对前年比140%）の宿泊客がありました。このことから今後、市内においても外国人の受け入れ体制の強化、「Wi-Fi環境、電子決済、施設のユニバーサル化（多くの来訪者がわかりやすいサイン）等」に市観光協会や山岳観光推進実行委員会などとも連携して取り組む必要があります。 また、これまでの大きなイベントを充実（満足度アップ）させながら継続し、多くの市民や来訪者の認知度を高め、安曇野市を訪れていただくベースイベントとして取組みたいと考えております。

平成30年度 基本施策評価シート (部別)

基本目標	魅力ある産業を維持・創造するまち
基本方針	ブランドの創出に取り組むまち
基本施策名	戦略的な地域ブランドの創出

	所属	職名	氏名
作成者	観光交流促進課	課長	大竹 範彦
評価者	商工観光部	部長	鎌崎 孝善

1 基本施策に対する基本姿勢

現状	<p>安曇野ブランドづくりに取り組む市民団体を支援しました。例えばVI (ビジュアルアイデンティティ) 向上のため、Instagramフォトコンテストでは、フォロワー数が15倍 (161→2415) になるなど市の情報接触者数の獲得につながりました。また、「安曇野林檎ナポリタン」の提供店舗は過去最高となる市内14事業者 (昨年より4事業者増) により提供され徐々にではありますが市民や来訪者に認知されつつあります。その他では、規格外の「夏秋イチゴ」を有効活用し「安曇野やさいスイーツ」のソースに利用するなど、食の魅力発信につなげ、イチゴ生産農家にもプラス要素となりました。</p> <p>天蚕振興では、江戸時代からの伝統を受け継ぐ天蚕の歴史、飼育作業工程、天蚕製品の展示を行い広く一般に公開してきました。天蚕振興会では、生産・販売・後継者育成事業やワークショップなど各種教室を行い、繭増産のための飼育林拡大などに取り組みました。また、県内市町村などで構成する「信州シルクロード連携協議会」とも連携し、それぞれの拠点 (32か所) を線で結び広域観光ルートに組み込むなどPR活動を実施しております。</p>
基本方針 (目指すべき方向性)	異業種間の連携を深めながら情報共有を進めるとともに、安曇野のブランドイメージを商品の高付加価値化に繋げ、地域ブランドの創出を図ります。

2 施策指標

指標	単位	(設定時)	目標値	H28	H29	H30	達成率	進捗状況	所管課
異業種連携による起業数 (商品数)	件 (累計)		10			15	150	予定以上	商工労政課

施策指標の進捗状況と分析	<p>縮減・廃止事業としてではないが、「事業効果を高めるための方策を検討」していく必要があるとして、天蚕振興事業及び天蚕センター維持管理事業を挙げる。振興団体「安曇野市天蚕振興会」による生産・販売・後継者育成事業やワークショップなど各種教室を行って事業効果を高める取り組みをしてきた。江戸時代から続く長い伝統・文化を守る上でも、当事業は継続し、今後は「銀座NAGANO」等でPRを計画している。</p>
--------------	---

3 基本施策を構成する事務事業の評価

(単位:円)

No	コード	事務事業名	所管課	事業費					事務事業の状況					重点化	
				H28	H29	H30	H31	R 2	合計	事業区分	新/継	終期	方向性		正規職員数
1	0107190	安曇野ブランド創出事業	ブランド推進担当	7,379,056	3,412,906	2,449,072	3,169,000	3,175,000	19,585,034	政策的業務	継続	期限なし	現状のまま実施することが適当	1	
2	0107210	天蚕センター維持管理事業	ブランド推進担当	3,828,900	4,247,296	4,023,840			12,100,036	施設の管理運営	継続	期限なし	事業効果を高めるための方策を検討	0.1	
3	0107220	天蚕振興事業	ブランド推進担当	1,240,070	2,146,485	2,251,252	1,092,000	1,092,000	7,821,807	政策的業務	継続	期限なし	事業効果を高めるための方策を検討	0.1	
合計				12,448,026	9,806,687	8,724,164	4,261,000	4,267,000	39,506,877						

事務事業量とコスト (費用対効果)の分析	「事業効果を高めるための方策を検討」していく必要があるとして、天蚕振興事業及び天蚕センター維持管理事業を挙げる。振興団体「安曇野市天蚕振興会」による生産・販売・後継者育成事業やワークショップなど各種教室を行って事業効果を高める取り組みをしてきた。江戸時代から続く長い伝統・文化を守る上でも当事業は継続し、今後は、その希少価値など認知度向上を図るため「銀座NAGANO」等でPRを計画しております。
重点化事務事業の考え方	
縮減・廃止事務事業の考え方	
総合評価 (次年度へ向けた課題の抽出含)	<p>今後は、観光振興ビジョンの見直しと合わせ地域おこし協力隊員と連携しながら、地域ブランドの特色や他地域との差別化を明確にし、PR手法では、WebまたはSNSなど複数の媒体を組み合わせ観光誘客に繋がる市の魅力を提供したいと考えております。</p> <p>天蚕振興では、これまでの取組を継続しながら、新たな商品開発に取り組み、銀座NAGANO等でのPR販売にチャレンジしていこうと考えております。また、センター建物については1978年建造で40年経過することから長寿命化・耐震化など施設の在り方検討していく必要があります。</p>

平成30年度 基本施策評価シート（部別）

基本目標	魅力ある産業を維持・創造するまち
基本方針	ブランドの創出に取り組むまち
基本施策名	安曇野ブランド発信の強化

	所属	職名	氏名
作成者	観光交流促進課	課長	大竹 範彦
評価者	商工観光部	部長	鎌崎 孝善

1 基本施策に対する基本姿勢

現状	市内の人口減少・少子高齢化が進む中、観光需要を喚起することにより地域活性化を図る。手法として観光キャンペーンに実施や広告宣伝活動、観光パンフレットの作成など観光プロモーション事業を実施しております。広域団体とは、周辺市町村で組織する協議会等と連携して取り組んでおります。
基本方針 (目指すべき方向性)	ブランド力の向上に努め、地域の活性化に繋がる安曇野ブランドの効果的な発信に取り組みます。

2 施策指標

指標	単位	(設定時)	目標値	H28	H29	H30	達成率	進捗状況	所管課
海外輸出農産品	品目	1	3						農政課

施策指標の進捗状況と分析	各種パンフレット類を作成し観光イベント等で配布しました。総合パンフレット（年間8万部配布実績）の内容を一新し改定を行いました。Webも含めた旅行雑誌、ラッピングバス、松本山雅HP、メディア向けプレゼンなど多方面で効果的な広告提出ができました。加盟する広域団体事業を通じ、市単独ではできない誘客に繋がる観光キャラバンを効率的に実施しました。
--------------	---

3 基本施策を構成する事務事業の評価

(単位：円)

No	コード	事務事業名	所管課	事業費						事務事業の状況					重点化
				H28	H29	H30	H31	R 2	合計	事業区分	新/継	終期	方向性	正規職員数	
1	0107250	観光プロモーション事業	ブランド推進担当	16,407,533	26,065,730	24,699,174	26,491,000	26,613,000	120,276,437	政策的業務	継続	期限なし	現状のまま事業を実施することが適当	1.2	
2	0107260	広域団体連携事業	ブランド推進担当	6,825,700	8,021,700	6,732,800			21,580,200	定型業務	継続	期限なし	現状のまま事業を実施することが適当	0.38	
合計				23,233,233	34,087,430	31,431,974	26,491,000	26,613,000	141,856,637						

事務事業量とコスト (費用対効果)の分析	各種取組の経済効果等の数値化がしにくく事業検証が難しいとありますが、これまでの統計結果などを考察しますと、当市を訪れる来訪者が増加傾向にありますので、効果的な取り組みだと考えております。今後も宣伝戦略を立案し、効果的なプロモーション活動を行っていく必要があると考えます。広域団体連携事業では、加盟関係団体と連携した観光キャラバンやパンフレットの作成等を行い、首都圏を中心に当市や周辺地域を幅広くPRし、目標値を達成しました。
重点化事務事業の考え方	
縮減・廃止事務事業の考え方	
総合評価 (次年度へ向けた課題の抽出含)	観光誘客を図るため広域関係団体と協力し、観光プロモーションに取り組む。市の観光資源の特色を明確化し、他地域との差別化を図りながら、複数媒体を活用しPRに取組み必要があります。団体の目的・効果を精査しながら、県や周辺市町村、民間団体等との連携により外国人を含めた観光PR事業を行っていきます。特にインバウンド向けの国外での活動は、市単独事業では難しいため、JNTOの在外現地事務所の活用や県インバウンド推進協議会と連携して取り組む必要があると考えます。